

## 特別講演 2

### 「気道疾患治療における吸入療法」

仙台気道研究所 所長

田村 弦 先生

#### Part 1: COPD の病態と診断、治療

慢性閉塞性肺疾患(COPD)は、タバコ煙などの有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。長期にわたる喫煙歴があり、咳嗽や喀痰、労作時呼吸困難などを訴えた場合に COPD を疑い、気管支拡張薬吸入後の 1 秒率(FEV<sub>1</sub>/FVC)が 70%未満であれば、診断する。確定診断には、他疾患、特に気管支喘息との鑑別が重要である。禁煙を普及させること、呼吸機能検査で早期に COPD を診断し、早期に薬物治療を開始し、適切に管理することが急務である。

#### Part 2: COPD における吸入療法

長時間作用性抗コリン薬(LAMA)と長時間作用性  $\beta_2$  刺激薬(LABA)、そして両者の配合薬が薬物治療の基本である。吸入デバイスとしては、ドライパウダー吸入器(DPI)とレスピマット・ソフトミスト・インヘラー(SMI)の 2 種類がある。代替フロンを使用しないレスピマット SMI の吸入デバイスとしての有用性、さらに、スピリーバ(LAMA)とオロダテロール(LABA)の配合剤であるスピオルトの優れた臨床効果に言及する。